

(様式第1号)

平成28年3月31日

陸前高田市議会議長 伊藤 明彦 様

会派名 日本共産党陸前高田市議団

代表者名 団長 藤倉 泰治



政務活動概要報告書

政務活動費に関する取扱要綱第6条第2項の規定により、平成27年度政務活動の状況について報告いたします。

記

1. 研修事業

(1) 復興全国交流集会への参加及び図書館視察

①事業名 復興全国交流集会 2015in みやぎ 会派視察＝図書館

②事業内容 上記の集会に参加し、あわせて会派視察として各地の図書館を視察、研修した

○日時 平成27年11月20日(金) 21日(土)

○場所 宮城県松島町、一関市及び仙台市の図書館

○集会主催 災害対策全国連絡会

○調査者 藤倉泰治、大坪涼子、伊勢 純

○行程 11月20日(金)

陸前高田発 9:00 発(車) ⇒ 10:00 一関市川崎図書館 ⇒ 11:00 一関市図書館 ⇒ 13:00 集会会場(松島町ホテル大観荘) <松島町町内宿泊>

11月21日(土)

集会2日目参加・集会会場(ホテル松島大観荘) ⇒ 14:00 仙台市立図書館 ⇒ 陸前高田着 17:30

○研修日程

20日(金)

一関市 川崎図書館 図書館職員から図書館の特徴、設計、利用システム等の説明をうける。

市立図書館 小野寺篤志館長から、建設の経過、まちづくりの中での図書館の役割、設計における市民参加のとりくみ、館内の利用の改善、さらに、保管庫及び移動図書館と地域・学校との連携などの説明をうける。

全国交流集会への参加

13:00 開会

13:30 記念講演 「復興と減災の課題—復興災害を絶つために」
講師 塩崎賢明 立命館大学教授



- 14 : 40 被災地岩手、宮城、福島各県の代表の報告
広島県の土砂災害、茨城県の豪雨災害の現地報告
- 16 : 10 分科会参加 第1分科会「被災者のいのちとくらしを守る」
大坪議員参加
第2分科会「生業を守る地域の産業と経済の再生をめ
ざす」 伊勢議員参加
第3分科会「災害からの復興と市民運動」
藤倉議員参加
- 18 : 10 休会

21日(土)

- 8 : 30 分科会再開
11 : 00 全体集会 分科会の報告
11 : 50 まとめと閉会あいさつ
12 : 00 集会終了

14 : 00~15 : 00 仙台市立図書館視察

○調査研究内容

・図書館視察

川崎図書館 かつて東北で一番の利用となっていた施設。子どもやお母さんなども気軽に出入りしやすい設計になっていた。館内展示図書の間座って読書できるスペースがあった。図書棚の本の選定にも常に期を配っていた。

一関市立図書館 駅前とおりの公共施設の2階に広いスペースで建設された。朝からその日の新聞各紙を読む一般の人がさっそく目立った。利用者はカードを持って入り口チェックや貸し出し記録が出来るシステムになっていた。新図書館建設の意義において、まちづくりの計画の中で、市民交流の中心的な位置づけを明確にし、住民参加での協議においても理解が得られ、多額の予算投入で建設した経緯を知った。飲食持込のスペースやグループ・団体利用の促進や、障がい者の利用でも配慮されていた。図書購入については地元書店の理解と協力もすすめていた。蔵書管理はIT化されていた。図書の学校利用や移動図書館利用も積極的におこなわれていた。職員体制については正規職員20人以上の配置と充実していた。

仙台市立図書館

仙台市の郊外の住宅・工業団地の地域の一面にあった。建物の場所は山林の中にあり、デザインもかなり高度な建物。閲覧スペースには利用者が多く静かに読書している感があった。閲覧スペースでは受験を控えた高校生がびっしり並んで夢中に学習に励んでいた。図書館に隣接してレストランがあった。環境も林の中の風情で静かだった。

・全国集会
記念講演

塩崎先生は、大船渡市の復興計画策定の委員長を務めた関係もあって、陸前高田市や大船渡市の状況について、写真も使って詳しく紹介していた。

先生は、①東日本大震災の復興の現状をどうみるか、②阪神・淡路大震災などの経験はいかされたのか、③次なる災害への備えは十分か、の3点について講演された。

(1) 東日本大震災の復興

○災害の特徴として、1) 広域複合災害、地震・津波と原発震災、2) 地方小都市、集落の被災、高齢化と人口減少、3) 日本経済の低成長、誠治の混迷

○津波被災地と原発被災地

国策＝原発政策の結末と、事故の真相不明、収束不透明、復旧・復興の遅れの問題があった。

○復興の現状

約2万人の死者・行方不明者、5年経ても20万人の避難者、関連し3331人、仮設に8万人、災害公営住宅の完成約3割。

○復興の枠組みと復興の遅れ

復興理念と復興構想会議の問題点、復興基本法の目的「活力ある日本の再生」ということに大きな問題。復興庁は司令塔か屋上屋か。被災自治体の力量、予算、人員、ノウハウ。震災前からの合併や「合理化の問題があった。

(2) 阪神大震災の復興

復興のスローガン＝「創造的復興」。21世紀の成熟社会にふさわしい復興。原形復旧ではなく改良復旧をとの意味合いも。実態としては「開発的復興」

(3) 次なる巨大災害への備え

原発災害対策をどうするか。世界どの国とも異なる特殊な条件として、国土面積あたりの巨大地震回数×原発基数での対策。今後フクシマの対応に数十年かかり、その間にもう一度日本破滅。日本では原発全廃しかない。

地震・津波・台風などの自然災害について

必ず来る（風水害は毎年、かつ巨大化）、止めることができないので、減災対策が必要。事前予防＋緊急対応＋復旧・復興の備え。急がれる「復興への備え」について

関連死を防ぐ＝避難所における人間的な生活の確保

福祉避難所・医療施設・簡易ベッドなど、「避難所・避難生活学会」の設立の提言。憲法「健康で文化的な最低限度の生活」の保障は「災害時は除く」わけではない。

○次に備えるべき復興基本法制の確立

○防災・復興省の創設 イタリアには市民安全省があり

分科会 陸前高田の復旧・復興のとりくみ、生活再建支援やいのち健康を守るとりくみ、営業や漁業などの生業の再生への支援などを報告し、意見交換に参加した。
福島、宮城の両県の現状ととりくみ、課題を知ることができた。また、広島土砂災害や茨城洪水災害の実態と対策の遅れ問題点なども知ることができた。

(2) 東京・築地市場視察

①事業名 築地市場視察

②事業内容 築地市場で広田湾産海産物の市場調査

○日 時 平成 27 年 12 月 17 日 (木) 18 日 (金)

○場 所 東京都 築地市場

○日程

17 日 11:00 陸前高田出発 (1 台) (12:00 出発 1 台) ⇒ 12:40 一関駅 (新幹線) ⇒ 15:00 東京到着 <都内宿泊>

18 日 3:30 東京築地市場 場内見学 築地市場(株) (東市) の営業第 1 本部 特殊・活魚部の櫛田部長から場内見学と説明、せり場などの見学 6:30 休憩 朝食 9:00 市場内見学 (仲買人などと懇談) 11:00 現地視察終了 ⇒東京駅 ⇒ (新幹線) 14:10 一ノ関駅着 ⇒ (車) 16:00 陸前高田着

○調査研究内容

- ・ 広田湾産のカキの市場内での高い評価の説明をうけた。震災後の現地での漁業者への激励と期待を述べられた。
- ・ 実際に、広田湾カキのせり場を見学。広田湾内の生産者ごとの番号によって呼び上げられ生産者個人ごとに落札されていた。
- ・ エゾイシカゲ貝への期待も高く。寿司ネタとしてトリガイが 4 月で切れる頃、そのあとにエゾイシカゲガイが入ってくるので、市場でも高い評価になっている。
- ・ 震災後の広田湾の漁業現場の状況を市場関係者は心配。現在は震災の国の事業の関係で共同作業となっているが、個々の生産に戻ればもっと品質があがってくると期待していた。
- ・ カキについては、全国的には広島産が生産量では圧倒的に多いが、ほとんどセリにかかることなく、都内のスーパー等に回るが、岩手県三陸産のカキはすべてセリにかかり、特に今年は高い値が付いていると説明をうけた。
- ・ 早朝の真っ暗のうちから、場内は車や運搬用リフトが行きかう勝活気があった。櫛田部長の話では平成 28 年 11 月に豊洲に移転と聞いた。最後の場内の様子を説明を受けた。

(3) 復興のつどい宮古への参加

①事業名 復興のつどい宮古

②事業内容 岩手県内の被災地での活動報告の交流

○日 時 平成 28 年 3 月 12 日 (土)

○場 所 宮古市・市民文化会館

○参加者 藤倉泰治、大坪涼子

○日程

11:00 陸前高田出発 (車) ⇒ 14:00 (途中参加) 宮古市・会場着 ⇒
集会参加 ⇒16:30 集会閉会 ⇒ 18:00 陸前高田着

○集会の内容

記念講演 「東日本大震災津波から5年～現状と課題」

齊藤 徳美氏 (岩手大学名誉教授)

①東日本大震災津波は想定外か、②これまでの三陸沿岸での津波対策、③3・11津波被害の状況、④岩手県の復興計画、⑤復興の現状、⑤-1、安全の確保、⑤-2 なりわいの創生、⑤-3 暮らしの再建、⑥復興の課題、⑥-1 復興はなぜ、⑥-2 コミュニティの喪失、⑥-3 地域創生とは？右肩下がりのカーブに戻しても(復旧)、未来は拓けず、⑥-4 三陸のビジョンをどう描くか、⑦震災5年目で改めて検証を、◎蛇足かもしれないが、忘れてはならない震災の教訓、原発の可否、持続可能な社会づくり、◎自然を、ヒトを理解して、次代の社会を選択する。私たちの「未来責任」

シンポジウム「大震災から5年 現状と課題」

宮古観光文化交流協会 山口惣一氏

浄土が浜における日最後の取組、直営店の再建、復興支援の物販、震災ガイド事業等について報告。減所と課題として、JR 山田線の早期復旧、観光客及び教育旅行誘致の取組、水産業と連携した誘客事業、フェリー航路開設による今後の取組を報告した。

陸前高田市米崎仮設団地 大坪涼子氏

被災地において地域での避難所や仮設住宅団地での活動、集団移転めざし地元協議会を結成しとりくんでききた経験を報告。陸前高田市における住宅再建支援や移転、生業の再生でのし独自の取組も消化した。

○調査研究内容

- ・震災から5年、講師の講演で、5年の総括の重要性が強調されたが、この5年間の国の対応、国の事業について検証が必要と思った。今後の県内の事業推進のかかわりはもちろんですが、全国的な問題としてその教訓を生かすためにも、今回の教訓問題点を明らかにすることが被災地の責任でもあると感じた。
- ・各自治体のなかで、新しい街づくりへの努力が新たな視点で進められていることを感じたが、課題も多く見通しが見えにくい現状も考えさせられた。

2. 要請・陳情活動

(1) 対県交渉

- ①要請項目 仮施設設期限の延長と、災害援護資金貸付制度の運用について
- ②日 時 平成28年2月9日(火)
- ③場 所 盛岡市・県議会議員会館控え室

④要請先 県生活再建課、商工観光部経営支援課

⑤交渉内容

1) 災害援護資金貸付制度の改善について

生活再建課小笠原総括課長に、「災害援護資金貸付制度」において「連帯保証人を立てない場合」の受付も対応することを要請。課長は、「返済能力の関係で連帯保証人を立てることが原則」と答えたが、「住宅再建した場合はその住宅を資産としてみれば連帯保証人なしも可能では」と要請、課長は「検討したい」と答えた。

2) 仮設施設の期限延長について

2年延長の中小企業庁の通知について、陸前高田市の場合は適用しにくいという問題について運用も含め改善を要請。伊藤まちづくり担当課長は「市として利用計画をつくって対応することが基本なので市として計画を練ってほしい」と回答があった。

(2) 被災3県交流会議及び国会議員要望

①事業名 被災3県交流会議及び国会議員要望

②事業内容

○日 時 平成28年2月3日

○場 所 一関市

○参加者 藤倉泰治、大坪涼子、伊勢 純

○行 程 車(陸前高田～一関)

◎要請項目

国の住宅再建支援制度の拡充／医療費の免除措置継続の財政支援／JR大船渡線復旧問題／区画整理事業の被災の現状にあわせた対応／仮設店舗の期限延長／災害援護資金貸付制度の改善

(3) 小池晃国会議員調査団への要望活動

①事業名 小池国会議員団への要望活動

②事業内容

○日 時 平成27年12月27日

○場 所 仙台市

○参加者 藤倉泰治

○行 程 車(陸前高田～一関) 新幹線(一関～仙台)

◎要請項目

被災跡地の土地利用計画の国の仕組み／医療費の免除措置継続の財政支援／仮設店舗の期限延長／震災5年の総括など